働きづらさに悩む ガールズ応援

http://girls-support.info/

若年女性に特化した グループ型就労支援の現場から

～横浜市男女共同参画センターの取組

2008-2014

2014年6月21日

報告:男女共同参画センター横浜南　小園 弥生

資料作成：植野ルナ、新堀由美子、小園弥生

男女共同参画センターでは
①女性特有の課題解決に取り組んできた

特有の課題は若年女性にも・・・

・婦人科系の病気や月経周期にかかわる不調

・母娘問題　・結婚・出産圧力

・家庭内性別役割、介護役割　・非正規雇用

「社会や家族の中で期待される、あるいは期待されない役割が女性の働きづらさを複雑化している、という視点を、連携により得られた」　(よこはまサポステ)

【センターの役割】　心身と性に対する自己尊重感を高め、女性が子ども時代から、働くイメージをもてるようにしていくこと。個人の問題ではなく社会の問題として発信していくこと。

男女共同参画センターでは
②グループ型支援を得意としてきた

1980年代から、女性の再就職や健康支援、相談にグループ・ダイナミクスを活用し、自助グループ支援にも取り組んできた。

- ありのままの自分でいる、安心感を体験する。
- 他のメンバーの体験を聴き、自分の体験を語る。
- 仲間の中で自分の状況を相対化できる。
- 人の役に立ったり、グループの中で人にかかわれる

「(就労体験カフェでは)女性だけの安心できる環境の中で、同じ悩みをもつ仲間に出会え、ステップをゆっくり進むことで働く自信をもてるようになっている。連携により個別相談ではわからない様子も知ることができ、支援の方向性を(互いに)明確化できる」(よこはまサポステ)

2008年　横浜市男女共同参画推進協会
「若年女性無業者の生活状況調査」

調査対象　15歳から35歳の独身女性

http://www.women.city.yokohama.jp/girls/tyousa_houkoku.pdf

●女性たちは生活上の困難な経験を重層的に経験していた

例:いじめ・うつで通院・親の支配・食べ吐き・暴力など

●非正規雇用で、短期間働いたり、やめたりをくり返していた

⇒育てられ、スキルを積み上げ、働き続けられる職場がない

●結婚や将来の暮らし方が見えない、わからない

●そんななかで、「対人関係が苦手、こわい」ながらも 「なんとかして働きたい」と希望していた

★2007年、「よこはま若者サポートステーション」の女性利用率は約3割　⇒女性は働く者として期待されていない。支援につながりにくい状況にあった。

若年女性の世代別支援対象者

(1)1993年ごろまでに社会に出た人たち

高卒･短大卒で正社員に。研修を受け、育てられた。その後、職場は人員が減り、体調を崩し休職、退職となる。いったんやめると次は派遣社員やアルバイトに。またはうつ等で何年か療養するうち、社会との接点を失って孤立した時期をへて、支援につながる。

(2)就職氷河期(1993-2005)に社会に出た人たち

初職から就職難。何百社という就活。競争に疲れ、メンタル不全に。職場は即戦力と空気を読むことが求められる。パワハラ経験者多い

(3)社会や人に安心感を得られずにきた人たち

小･中学生時代から学級崩壊、いじめ、不登校や入院･通院経験者･学校中退者多い(1990年代生まれ)。「人や社会は安全でない」という感覚からの出発。女性の過半数が非正規雇用の時代。短期で働いたりやめたり、先が見えない中で支援につながる。

若年女性(ガールズ)就労支援の流れ

【安心・自己肯定】
・ガールズ講座
(年間2コース)

ボランティア
(社会参加体験)

【体験・試行】
・就労体験
めぐカフェ
・ライブラリ

【就労・参画】
・一般就労
・他の就労
・制度利用
・(1人ひとりの道)

若者サポートステーション等支援機関での個別サポート

〇2009年春～ガールズ編 しごと準備講座スタート、10期、214人修了
〇2010年末～就労体験「めぐカフェ」オープン、7期、65人修了　　(2014年3月現在)
〇2012年～　フォローアップ　いちごの会、　2012『“ガールズ”自立支援ハンドブック』
〇2013年　社会参加体験　試行実施、　“ガールズ”支援事業修了者追跡調査

2009年「ガールズ編 しごと準備講座
～働きづらさに悩むあなたに」　開始

全11日間（月･水･金　10:15-正午）、定員:20人
対象:15歳～39歳のシングル女性（母ではない、学校や職場に属していない）

◎特徴

1「相談」ではなく、「グループ(講座)」が入口

・同じような悩みをかかえた仲間に出会う
・自己開示や言語化を強要しない
・ただいるだけでいい、安全な場を確保

2　呼吸･声･からだほぐし等 身体面からのアプローチ

・「自分を大切にする」ことを知る（心身のケア、食事、アサーティブネス)
・緊張をほぐし、安心感と自己肯定をもてるように

3 社会とつなげる

・さまざまなサポートや社会資源を知り、助けを求められるように

ガールズ編 しごと準備講座 カリキュラム

第1日	写真選びによる自己紹介、安全ルール確認、自分を知るワーク
第2日	からだほぐし、リラックスする方法を知る ヨガ等実技
第3日	「自分を大切にする」アサーティブネス入門
第4日	呼吸とリラックス、自分の声を出す実技
第5日	先輩の体験談、自分をラクにする方法、婦人科系の情報
第6日	こころに効く料理実習と栄養の話
第7日	適職チェック・インターネットでしごとさがし
第8日	履歴書の書き方、若者サポートステーション紹介
第9日	自分を好きになるメイクレッスン(by企業ボランティア)
第10日	アルバイトでも最低限知っておきたい法律、相談先
第11日	修了シートでふりかえり、気づきや変化を語る交流会

講座参加者の声

☑外に出ることができた。朝起きて夜寝る生活に。
☑同じ立場の人と出会えた。あきらめないでいくよ!
☑相談できる場所がいろいろあるとわかって安心
☑絵を描いたりものを作る人になりたいと自分発見
☑ここでは･･･追い詰められなくてよかった
☑通院歴10年。「**世の中に期待しすぎず、活用できるものを見つけていきます**」

こんな声も･･･「30歳崖っぷち。婚活と就活どっちが先？」

講座後、すぐに一般就労とはいかない現実から･･･
就労体験の場をつくることにした。

2010年11月 就労体験「めぐカフェ」

男女共同参画センター横浜南に 開店!

めぐカフェスタッフブログ
＋ めぐちゃんツイッター

2010年盛夏より、ガールズ講座修了生
約20人のチームで開設準備。命名も。

開店 月・火・水・木 11:30-16:00

対象:
ガールズ講座修了あるいは
サポステからの紹介者。
主治医がいれば賛成していて、
遅刻欠席なく通える人。

特長:
・一般客が来る、下町の公共施設の中のカフェ
・雇用でなく、見守りのある中間的就労の位置づけ
・目的を本人が設定。体験の場はグループ型支援、
個別支援はサポステ等を併用。機関連携で支援

就労体験の内容

【ステップ１】　受け入れ：8名程度

3時間×10回(週2回、期間は１ヵ月半)　手当なし

内容：講習、野菜販売体験、カフェ実習、レポート発表

【ステップ２】　受け入れ：4名程度

3時間×20回(週2回、期間は約3ヵ月)　手当付き

内容：カフェの開店・閉店準備、調理補助、配膳、接客

・このあと、期間限定の「アルバイト雇用」もあり。
・各段階ごとにレポート提出、面接。
・段階は「時間を守る・声を出す」→「人の中でチームで動く」→「サービス提供」

就労体験者の背景

※よくある例であり、実際の困難な要因･組合せは1人ひとりちがいます。

- 働いたことがない　or　短期間しかない
- 学校になじめなかった
- 周囲のペースと合わない、浮いてしまう
- 働く中で、精神的な傷や二次障害を負う
- メンタル不調、体力と体調管理が課題
- 人とのかかわり、社会との接点がうすい
- 料理など生活体験が不足がち
- 家族(とくに母)との関係が強い影響を及ぼす

＋女性であるがゆえの諸問題

めぐカフェ就労体験その後

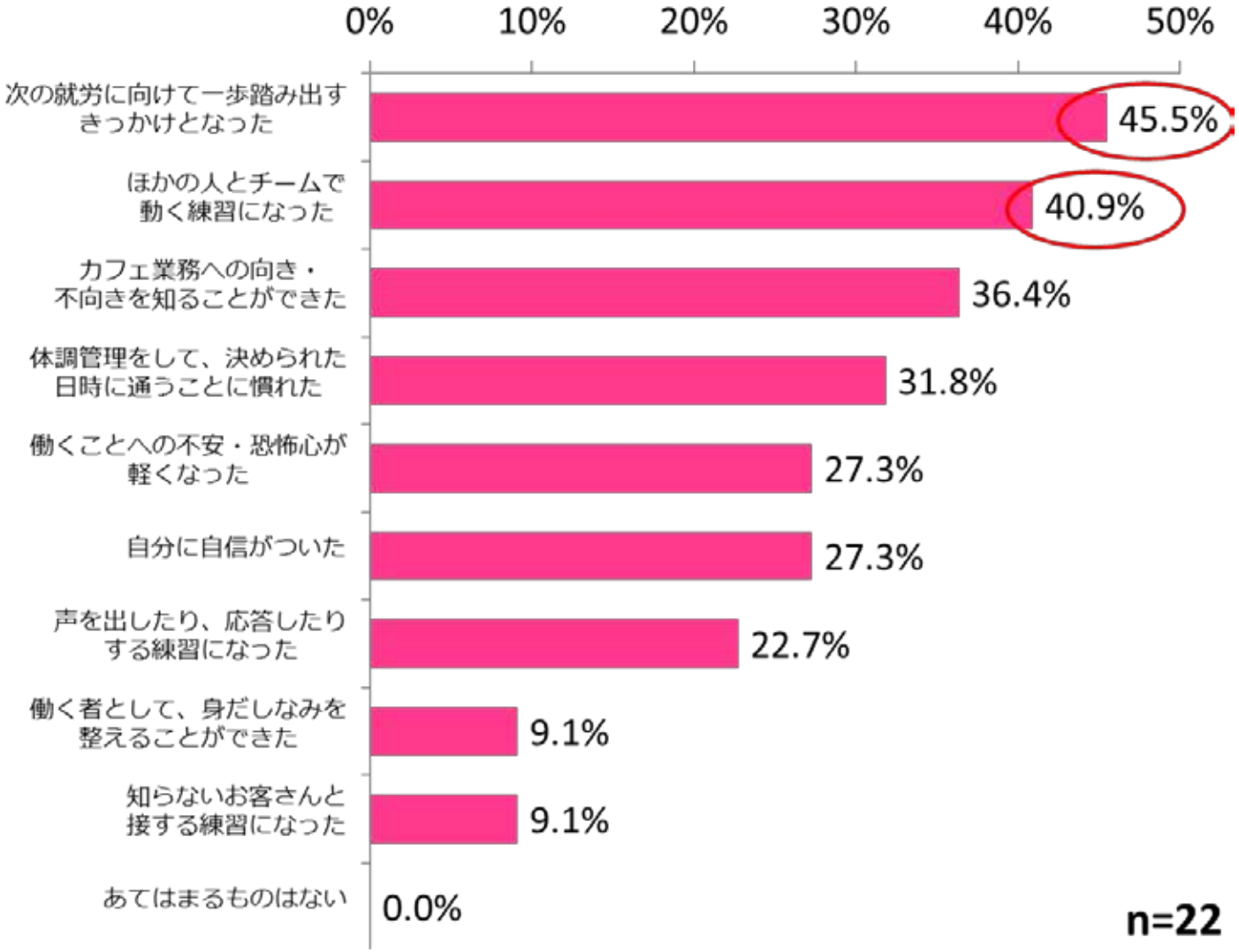
61人の体験者女性(2010.11〜2013.12)

- 平均年齢26.3歳
- それまで働いた経験がない人　14人(23%)

※学校を中退している人も同数

- 就労体験後、何らかの就労をした人　27人(44%)

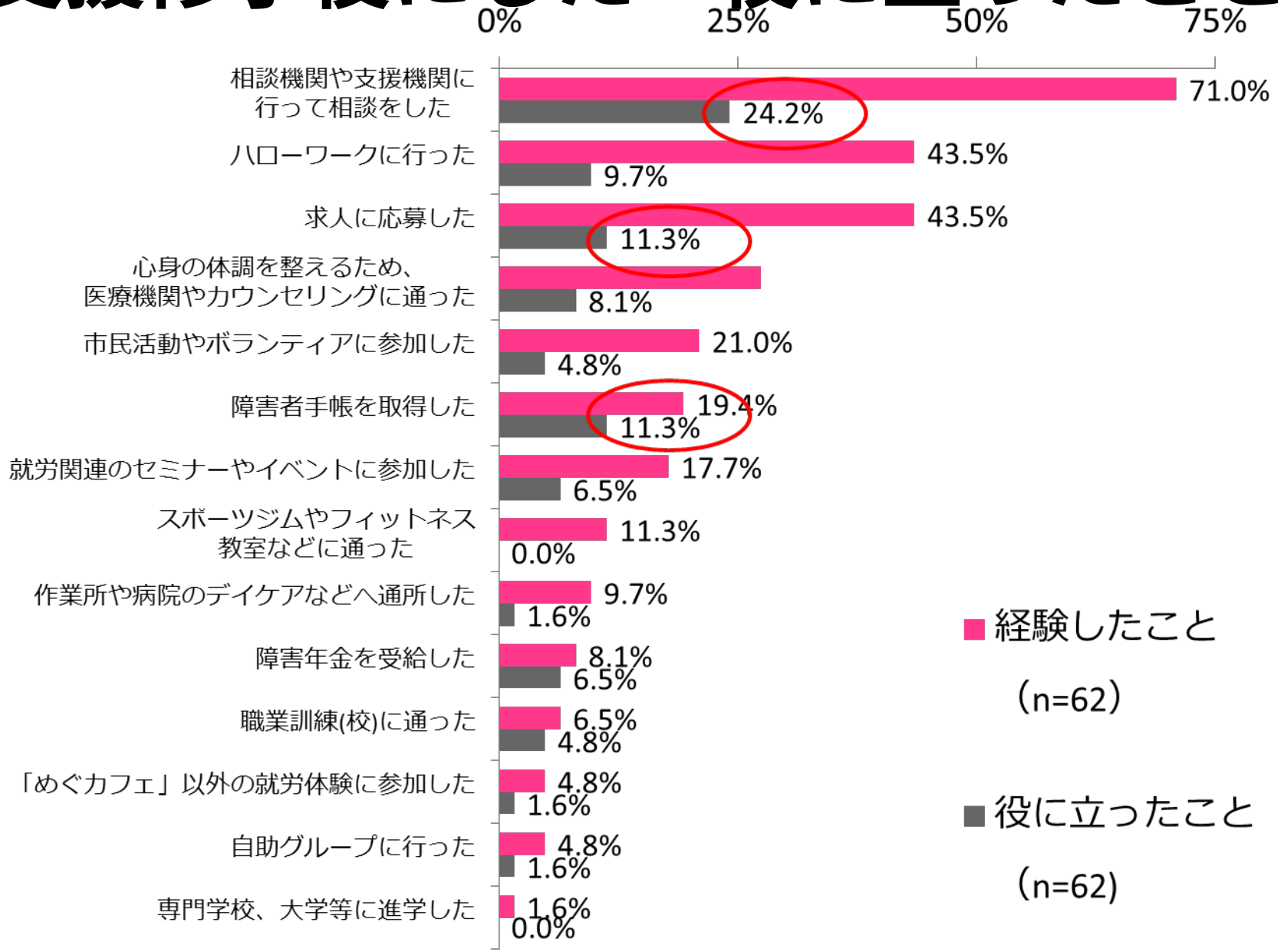
2013年“ガールズ”支援事業修了者追跡調査
◎就労体験が役立った点



◎自由記述より

- 働くことの楽しさ、お金をもらう喜びを感じられた
- 働きたいという意欲が強くなり、前へ進みたいという気持ちになれた
- 新聞でめぐカフェを知って、サポステにつながり親身になってもらえたことから今の仕事に・・・
- 男性が苦手な自分でも参加できた
- どうすれば相手や自分が気持ちよく働けるか、接し方・話し方、失敗したとき・体調の悪いときの気持ちの整え方など、実践の場になった

◎支援修了後にした・役に立ったこと

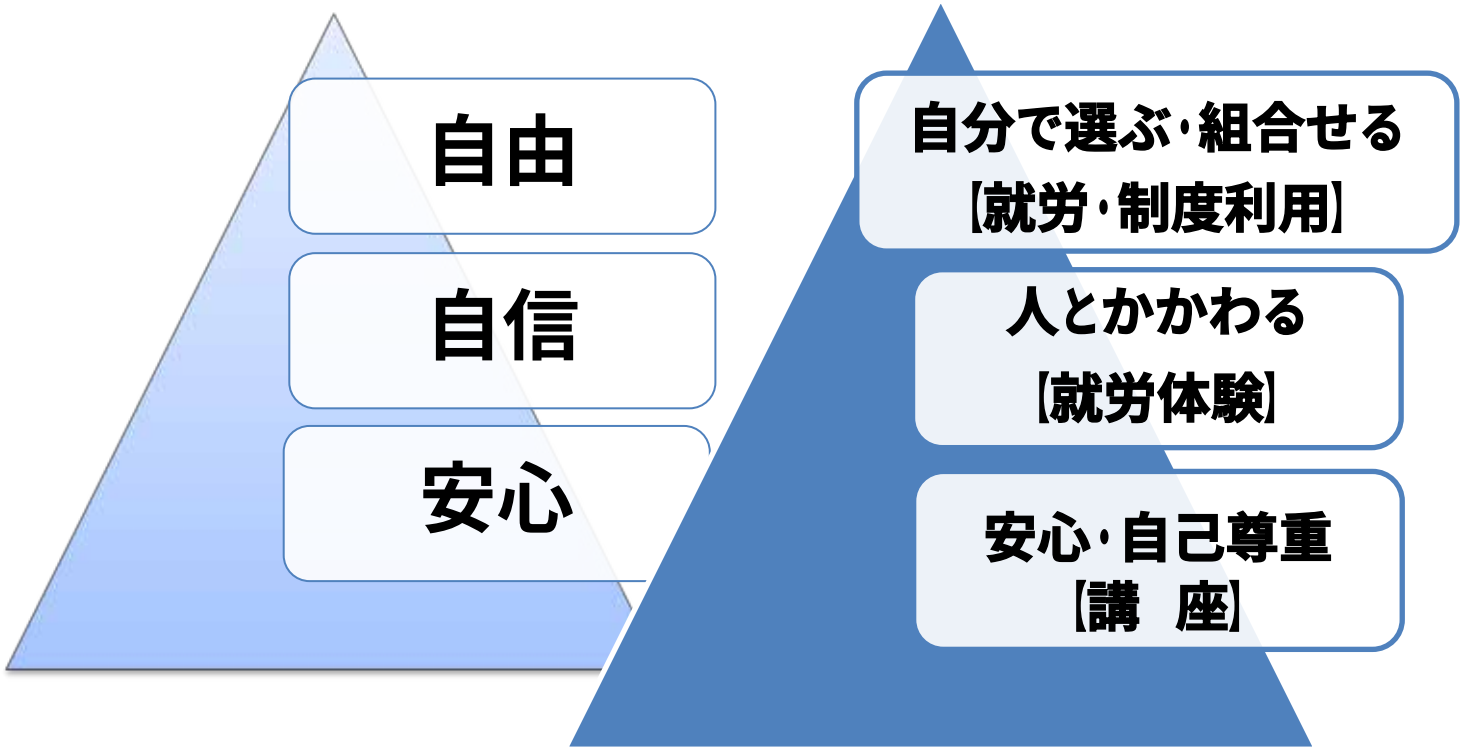


◎こんなサポートがあったら
～自由記述より

- 働く女性の参考となるモデルが少ない。成功例だけでなく、「こういうふうにバランスをとって生きている」例を知れたら希望になる。
- 一定期間就労体験をした後、互いの合意で雇用契約を結べる、そんな橋渡しをしてほしい。
- 障害者認定はもらえない、健常者との間にいる人をサポートしてほしい。一番生きづらい。
- 家族の相談が気軽にできる場所。メール相談。
- 20代と30代では状況が違う。年代別の何か・・・

自立支援の考え方

自立とは？ 助けを求め、一般就労、障がい者枠での就労、ものづくり、福祉制度の利用、親などの資源を選択し、パッチワークのように組合わせ、サバイバルしていけることでは？　かたちは人それぞれ。

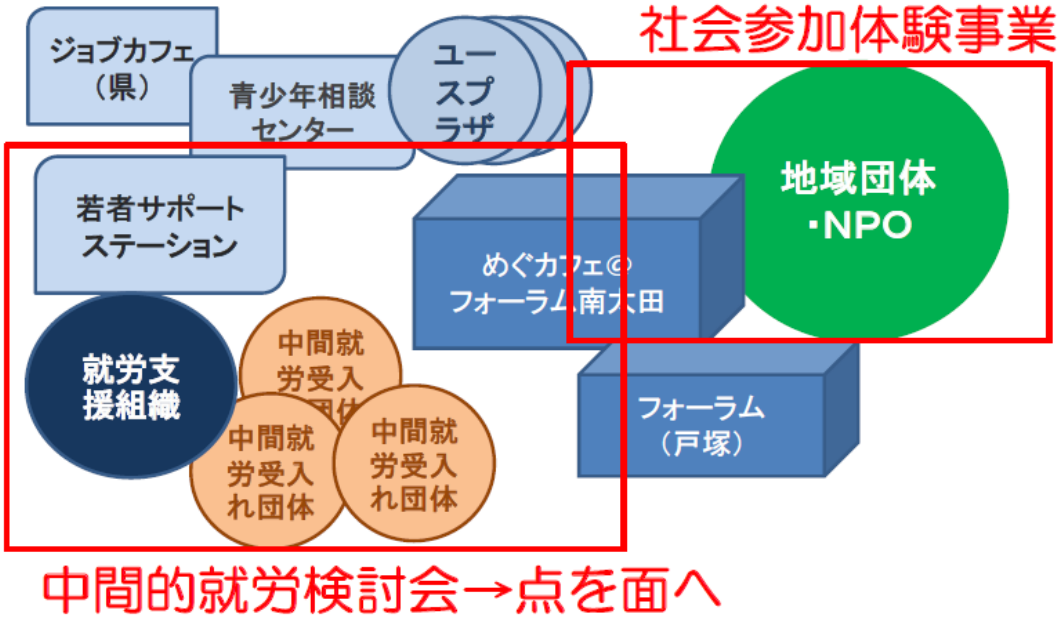


パッチワーク・サバイバル

支援する側の課題～地域と社会へ

- 点在する支援機関･支援者の孤立を脱し、地域の資源というキルトをつなげて

就労体験と地域（横浜）



- 社会への働きかけ　予算と継続性の担保、人をゆっくり育てられる職場づくり、女性がまじめに働けば暮らせる最低賃金、交通費、健康診断の確保　等